ほうそうげ
生駒市立俵口小学校　学校だより
令和5年度　10/6 臨時号

令和５年度　全国学力･学習状況調査について

令和５年４月１８日(火)､全国学力･学習状況調査が実施され､本校６年生児童が調査に取り組みました。このほど､文部科学省より調査結果が送付されましたので､その概要ならびに分析結果を以下に記載します。

１　国語科学力調査

(１)　全体的な傾向

平均正答数、平均正答率は、奈良県ならびに全国平均より高い値となりました。正答数分布はややＭ型に近く、正答数が高い児童数と、そうでない児童数との二極化の傾向が若干みられました。

学習指導要領に示された内容に照らすと､「Ａ　話すこと・聞くこと」「Ｃ　読むこと」「(１)　言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する事柄を問う問題ついては､奈良県平均や全国平均より高い正答率を､「(２)　情報の扱い方に関する事項」に関する事柄を問う問題については、奈良県平均や全国平均とほぼ同程度の正答率を示しました。一方､「Ｂ　書くこと」に関する事柄を問う問題については、奈良県平均や全国平均より低い正答率を示しました。

無解答率については、多くの問題で、全国平均よりも高く奈良県平均よりも低い傾向がみられましたが、どの問題についても、奈良県平均や全国平均との大きな開きはみられませんでした。

(２)　解答状況からみた本校６年生児童の特長

・　パンフレットなどの情報から文中の語句に着目して、それらの関係を把握したり、相互の関係を図などで表したりする力を、しっかりと身に付けている傾向がみられました。

・　インタビューなどの場面において、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を意識しつつ、必要なことを質問したり確かめたりしながら聞く力を、しっかりと身に付けている傾向がみられました。

(３)　解答状況からみた本校６年生児童の課題

・　原因と結果、部分と全体、目標と計画、事実と考えなど、複数の事柄の関係性をとらえる力の定着にやや課題のある傾向がみられました。上記「(２)　解答状況からみた本校６年生児童の特長」にあるとおり、語句のレベルでの関係性を理解する力は高いことから、示された事柄の全体をより俯瞰的な視点でとらえる練習の場や機会を、積極的に設けていくことが必要と思われます。

・　物事や情報の関係性に着目し、図表やグラフなどを効果的に用いて、自分の考えが伝わるよう工夫して書く力の定着にやや課題のある傾向がみられました。上記「(２)　解答状況からみた本校６年生児童の特長」にあるとおり、話したり聞いたりする力は高いことから、これらの活動によって得た情報や図表などを用いて、自身の考えを明確にしつつ書きまとめる練習の場や、作成物の共有機会を積極的に設けていくことが必要と思われます。

・　日常よく使われる敬語の使い方の定着に若干課題のある傾向がみられました。丁寧語、尊敬語、謙譲語の理解を再確認したり、生活場面を想定して使い方の練習をしたりすることが必要と思われます。

２　算数科学力調査

(１)　全体的な傾向

平均正答数、平均正答率は、奈良県ならびに全国平均より高い値となりました。正答数分布はややＭ型に近く、正答数が高い児童数と、そうでない児童数との二極化の傾向が若干みられました。

学習指導要領に示された領域に照らすと､「Ａ　数と計算」「Ｂ　図形」「Ｃ　測定」「Ｃ　変化と関係」「Ｄ　データの活用」のいずれにおいても、奈良県平均や全国平均よりわずかに高い正答率を示しました。

無解答率については、１６問中の１５問で、奈良県平均や全国平均やよりも低い値を示しました。１６問中の１問では、奈良県平均よりも低く、全国平均と同じ値を示しました。また、どの問題についても、奈良県平均や全国平均との大きな開きはみられませんでした。

(２)　解答状況からみた本校６年生児童の特長

・「Ａ　数と計算」の領域で、「○×△」や「(◇+◎)」などの式が、問題の中のどの数量を表しているのかを読み取り理解する力を、しっかりと身に付けている傾向がみられました。

・「Ａ　数と計算」の領域で、示された表から必要な数を読み取る力を、しっかりと身に付けている傾向がみられました。

・「Ｄ　データの活用」の領域で、グラフから必要な数を読み取ったり、グラフが示す事柄の特徴や違いを把握したりする力を、しっかりと身に付けている傾向がみられました。

(３)　解答状況からみた本校６年生児童の課題

・「Ｃ　変化と関係」の領域で、比例の性質を用いて、知りたい数量の大きさを求める力の定着に、若干課題のある傾向がみられました。

・「Ａ　数と計算」の領域で、一の位が０の二つの２位数について、乗法計算技能の定着に若干課題のある傾向がみられました。

・「Ｂ　図形」の領域で、台形や正方形の意味や性質についての理解に若干課題のある傾向がみられました。

・「Ａ　数と計算」の領域で、加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いて計算したりする力の定着に、若干課題のある傾向がみられました。

・「Ｄ　データの活用」の領域で、二次元の表(二つの観点から情報をまとめた表)から、条件に合う数を読み取る力の定着に、やや課題のある傾向がみられました。

上記のことから、比例の性質や図形の特徴についての理解の再確認、四則の混じった様々なパターンの反復計算練習、様々な数量を表した二次元の表の活用などの機会を設け、児童の一層の学力向上を図っていくことが必要と思われます。

３　児童質問紙

(１)　回答状況からみた本校６年生児童の特長

- 質問番号(１４)「友達関係に満足していますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均よりもわずかに高くなりました。質問番号(１２)「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対してもほぼ同様の回答傾向がみられることから、学校を中心とする、児童の集団生活への適応は概ね順調に保たれているものと判断します。一方、質問番号(１２)では、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童の割合が低くない値を示していることに注意する必要があります。受容的な声かけや見守り等を通じ、児童が安定した気持ちで毎日の学校生活を送れるような学校風土を今後も醸成していく必要があると考えます。
- 質問番号(２０)「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対し、「２時間以上」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均より高い値を示しました。また、質問番号(２１)「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか」に対し、「だいたい４回以上」と回答した児童の割合にも同様の傾向がみられました。学校司書や地域ボランティアを中心とした効果的な図書室運営や、読書に対する啓発活動が大きな好影響を与え、読書や学校図書館に対する児童の関心を維持向上させているものと判断します。
- 質問番号(２９)「５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」に対し、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均より高い値を示しました。また、質問番号(３０)「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」に対し、「役に立つと思う」と回答した児童の割合にも同様の傾向がみられました。より効果的な ICT 活用に向け、教員が研修やノウハウ共有などの努力を重ねつつ日々の学習指導に向き合っていることが、ICT 活用に対する児童の関心やスキルの維持向上につながっているものと判断します。

(２)　回答状況からみた本校６年生児童の課題

- 質問番号(５)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均よりも低い値となりました。質問番号(６)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合については、奈良県平均や全国平均よりも高い値を示していること、学年や学級の日常の雰囲気などから、児童が教員に対してネガティブな印象を抱いているわけではないと判断します。その一方で、児童が思春期や第二次性徴のさなかにあること、様々な背景を抱えているケースが少なくないという本校の実態等を踏まえつつ、学年全体の受容的な雰囲気や児童の自己肯定感を高める努力を、根気強く積み重ねていく必要があると考えます。
- 質問番号(７)「将来の夢や希望を持っていますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均よりも低い値となりました。一方、「当てはまらない」と回答した児童の割合は、奈良県平均や全国平均よりも高い値となりました。キャリア教育の視点から、児童が多様な体験をしたり考え方にふれたりする機会を積極的に設けること、心理教育の視点から、考え方の癖に気付いたりリフレーミングに取り組んだりする機会を積極的に設けること等を通じて、改善を図っていきたいと考えます。
- 質問番号(２５)「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均よりも低い値となりました。学習補助や草花の植え付け、図書ボランティア、登下校の見守り等、多くの場面で地域の方々が自分たちの学習を支えてくれていることを、折にふれ児童に周知したり、新型コロナウイルス感染症のために縮小や中止を余儀なくされていた地域学校協働本部の活動を活性化させ、参加を促したりすることで、児童の地域への愛着や帰属意識を高めていく必要があると考えます。
- 質問番号(１６)「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」や、質問番号（３７)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対し、「当てはまる」と回答した児童の割合が、奈良県平均や全国平均よりも低い値となりました。ICT のより効果的な活用、学習結果や作成物の肯定的な評価等を通じて、家庭における学習習慣の一層の定着を図っていく必要があると考えます。

生駒市の結果と概要は、生駒市ホームページをご覧ください
https://www.city.ikoma.lg.jp/0000004287.html